

記者発表（資料配付）				
月／日 （曜日）	担当部課 担当名	TEL （内線）	発表者 （担当班長名）	その他配布 先
3／8 （金）	感染症対策課 （感染症班）	（直通）078-362-3213 （内線）3286	感染症対策課長 舟川 直輝 （小林 博之）	——

麻しん(はしか)患者の発生について

3月6日、東大阪市保健所より麻しん患者（裏面参照）に関して、接触者（航空機同乗者）の連絡がありました。居住地を管轄する健康福祉事務所が確認したところ、発熱等の症状があり、管内医療機関を受診。同医療機関から臨床診断例の届出がありました。県立健康科学研究所で遺伝子検査を実施したところ、本日、麻しん陽性であることが判明しました。

この患者の疫学調査を実施したところ、感染の可能性がある期間に、公共交通機関の利用はありません。

麻しんについては、日本は排除状態にあると WHO より認定されておりますが、最近、海外からの輸入例等からの感染事例が報告されており、引き続き注意が必要です。

記

1 患者概要

- (1) 年代、性別：20歳代、男性
- (2) 居住地：丹波健康福祉事務所管内
- (3) 症状：発熱、鼻汁、発疹など
- (4) 現在の状況：自宅療養中

2 経過

- | | |
|-------|---------------------------|
| 2月24日 | 帰国 |
| 3月5日 | 発熱 |
| 3月6日 | 医療機関を受診、「麻しん（臨床診断例）」の届出受理 |
| 3月8日 | 遺伝子検査の結果、麻しん陽性 |

3 県の対応

- (1) 県民等への情報提供
 - ① 県ホームページによる情報提供
 - ② 県医師会等関係機関へ情報提供
- (2) 接触者の健康観察

【参考】

(1) 大阪府の資料配付

<https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=50650>

(2) 東大阪市の資料配付

<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/0000038419.html>

(3) 麻しん発生状況

(件)

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
兵庫県	51	1	—	1	2	<u>1</u>
全国	744	10	6	6	28	1

※兵庫県：R6年は、R6.3.8時点（本件含む）

全国：R4～R6年は速報値（R6.2.18時点）（本件含まず）

県民の皆さまへ

(1) 麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、空気感染、飛沫感染、接触感染により、ヒトからヒトに感染が伝播します。その感染力は非常に強いと言われており、免疫を持っていないヒトが感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われていています。

感染すると約10～12日の潜伏期間の後、38℃前後の発熱が2～4日続き、咳、鼻水といった風邪のような症状が出ます。その後、少し体温が下がり、再び高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。発疹出現後3～4日間で解熱し症状は軽快、合併症のない限り7～10日後には症状が回復します。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律「感染症法」の五類（全数届出）感染症に位置づけられています。

(2) 麻しんの症状が出たら電話をしてから医療機関を受診しましょう。

麻しんの症状は、まず38℃前後の発熱、咳、鼻水、結膜充血がみられ、その後下降した熱が再び高熱となり、発疹がでます。

(3) 麻しんと診断されたらすぐ連絡しましょう。

医療機関等で麻しんと診断された場合は、学校や幼稚園、保育所、職場等にすみやかに連絡し、医療機関の指示のとおり自宅で療養してください。

(4) 定期予防接種（MRワクチン等）を受けましょう。

第1期（1歳の間）、第2期（小学校就学前の1年）の2回接種が必要です。

(5) 麻しんの免疫を持っているか知りましょう。

麻しんにかかったことがない方や麻しんワクチン接種が1回だけの方（20歳代後半～40歳代半ば）は、十分な免疫を獲得していない可能性があるため注意が必要です。